

1. はじめに
2. 批判的地域主義
3. 建築でみる批判的地域主義
4. 考察

1. はじめに

ケネス・フランプトンは序文にかえてポール・リクール『歴史と真理』からの引用を起用している。そこでは「単一の世界的文明化が同時に過去の偉大な文明を作り出してきてた文化的源泉を犠牲にする」と述べられており、モダニズムの危機をあらわしている。そこで問題となるのが「どうやって古い、眠れる文明を再興すると同時に普遍的文明に参加するか」ということである。

フランプトンはリクールが提起した問題に大して、ポストモダンの礎となる新しい考え方を示している。それが文中で何度も出てくる『批判的地域主義』だ。ここではその批判的地域主義の定義をモダニズムとの比較から見ていきたいと思う。そこからフランプトンが挙げるポストモダンの発想と私たちが理解するポストモダニズムにはどのような違いがあるのか、またポストモダニズムを否定する動きさえある現代であるが、彼が目指したポストモダニズムはどのような問題をはらんでいたのだろうか。

2. 批判的地域主義

●文化と文明

居住空間と第二次、第三次産業の混在する市街地→ビジネス街としての都市景観
＝普遍的な文明が地方的特色をもった文化に勝利

近代化の猛威 = 『発展』という名の略奪

●アヴァンギャルドの興亡

アヴァンギャルドの出現 ⇔ 建築の近代化

ポストモダン・アヴァンギャルド = 批判的、敵対的文化の断片化と衰退
現らしいのユートピア的約束の消滅

●批判的地域主義と世界文化

・基本戦略

普遍的な文明のインパクトと、個別的な場所の特色から間接的に引き出されてくる諸要素とを和解させること

・地域主義と民衆主義の違い

・実践の基本戦略

世界文化の全側面を「脱構築」

普遍的文化のはっきりとした批判の達成

・バクスバート協会…普遍的文明と世界文化とを総合している

→地域性の差肯定

●場所－形式の抵抗

・マルティン・ハイデガー『建てること、住むこと、思索すること』

・抵抗の建築

境界付けられた領土という絶対的先行条件があってこそ、進行するメガロポリスの流動化に対立できる

・権力と密度の関係

●文化対自然－地勢、コンテキスト、気候、光、構造的形態

「批判的地域主義」

→形式的な伝統を許すより、より自然と直接的な対話関係を必要とする

建築の自立性

風景配置的なものではなく幾何学的なもの

→材料、技術的作業、重力を相互に純化させあい、全体的構造の凝縮的表現。

ファサード(建物の正面)による再－現前(レ・プレゼンテーション)ではなく、詩的なものの構造における現前(プレゼンテーション)。

●視覚性対触覚性

「批判的地域主義」は

人間の知識の触覚的広がりを再喚起することによって、私達の規範である視覚的経験を補完しようとする

・視覚像の優越性の緩和

・遠近法による環境の解釈、「近接性の喪失」への反対

(※遠近法→合理化された視野、あるいは明確に見ること)

3. 建築で見る批判的地域主義

- ・『アシタノイエ』、『戸田市芦原小学校』小泉雅生
反普遍的技術の最高度利用
- ・『Vacation House』Wendell H Lovett
地形を生かした設計
- ・『法政大学多摩キャンパス』
場所のもつ固有性の表現

4. 考察

フランプトンが述べている批判的地域主義において最も評価すべきことは、「高度な自己批判意識の維持」にあるように思える。フランプトンの言う「普遍的文明」には自己批判的要素が含まれており、「はっきりとした批判を達成」することで世界文化を狙い、引き継ぐことができると考えられていた。

しかし、後に「ポストモダン」と呼ばれる流れの中で、その自己批判的な姿勢が衰え、多様性とローカル性だけが強調されるようになった。よって、私たちが理解しているポストモダンと批判的地域主義の精神とは必ずしも一致するものではない。

現代においては自己批判という点を見失い、自己相対化することで日常の抑圧から自己アイデンティティーを確立させているように感じる。お互いが干渉をせず、個人がよければそれでよし、といった個人主義的な状態に陥っているのではないだろうか。

私たちの今という時代は、批判的地域主義からすればポストモダンの延長線上にあるということもできるが、現代の批評家たちがポスト・ポストモダニズムとある程度くりつけている事実も考慮に入れると、また新たな節目を迎えるときが迫ってきていると考えることもできるのではないだろうか。しかしここで、私たちはモダニズムへ単に回帰しようとするのではなく、フランプトンが当時挙げた自己批判力を伴った普遍性というあり方をもう一度見直してみる価値はあるのではないだろうか。

参考文献

- ・『10+1 2003 no.32』 INAX出版
- ・『DECORATIVE ART and Modern Interiors』Studio Vista